

平成27年度
第3回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成27年12月8日（火） 13:30～16:30

場所：福島環境再生事務所 北庁舎7F会議室

出席委員（敬称略）

全国都市清掃会議 技術部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学環境管理センター センター長	川本 克也
京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学 大学院環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔
環境省福島環境再生事務所 調整官（廃棄物担当）	馬場 康弘
環境省福島環境再生事務所 減容化施設整備課 課長	小島 啓之

オブザーバー

福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	鈴木 仁
福島県相双地方振興局県民環境部 副部長兼環境課長	清野 弘

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 川内村	7トン/8時間	仮設焼却施設
2. 富岡町	500トン/日（250トン/日×2炉） 160トン/8時間	仮設焼却施設 仮設破碎選別施設
3. 南相馬市（代行炉）	200トン/日	仮設焼却施設

II 検討内容

1. 川内村 7トン/8時間 仮設焼却施設
冒頭、日立造船（以降、日立と記載。）より、業務内容について説明があった。

（1）処理対象物について

委員より、処理対象物の発熱量や性状等が変化した場合の運営管理はどのように行って

いるのかとの質問があった。日立より、受入ヤード内で均一化し当日に全量処理を行っているとの回答があった。また、状況に合わせて排ガス処理装置の消石灰吹き込み量を調整し、ばい煙対策を行っているとの説明があった。

(2) 焼却残さの処理について

委員より、飛灰と飛灰固型化物の放射性セシウムの収支は合っているのかとの質問があった。日立より、飛灰への副資材（セメント、水）添加割合から放射性セシウムの収支は合っているとの回答があった。

(3) 焼却残さの管理について

委員より、焼却残さを収納するフレキシブルコンテナはすべてを管理しており、最終処分場に搬入されても管理が可能かとの質問があった。日立より、すべてのフレキシブルコンテナを管理しており、最終処分場への搬入後も管理が可能との回答があった。

(4) 設備の解体について

委員より、炉の解体時の除染にはドライアイスブラストや高圧水洗浄を使用するのかとの質問があった。日立より、高圧水洗浄をメインで使用するが、場所などの特性に合わせてドライアイスブラストを使用するとの回答があった。

2. 富岡町 500 トン/日 (250 トン/日×2 炉) 仮設焼却施設

160 トン/8 時間 仮設破碎選別施設

冒頭、MHIEC・鹿島・MHI 共同企業体（以降、三菱 JV と記載。）より、業務内容について説明があった。

(1) 処理対象物について

委員より、通常のごみに比べて処理対象物の発熱量が低いがどのように運転調整しているのかとの質問があった。三菱 JV より、適宜助燃剤を使用しているとの回答があった。

(2) 仮設焼却施設について

委員より、バグフィルタには活性炭入りの消石灰を吹き込んでいるが活性炭添加の目的は何かとの質問があった。三菱 JV より、ダイオキシン類対策のために吹き込みを行っており活性炭は消石灰中に 5%添加しているとの回答があった。

(3) 仮設破碎選別施設の管理について

委員より、仮設破碎選別施設でのアスベストの計測は行っているのかとの質問があった。三菱 JV より、月 1 回計測しており結果は基準以下で問題ないとの回答があった。

(4) 仮設焼却施設の管理について

委員より、炉内に付着したクリンカ除去作業はどのような対応をしているのかとの質問があった。三菱JVより、足場を組んでピック^{はっ}りで対処し、作業中は誘引通風機を回して粉じん対策をしているとの回答があった。また、作業員にゴーグル、マスク等の保護具を装備させることにより内部被ばくはないとの回答があった。

3. 南相馬市（代行炉） 200トン/日 仮設焼却施設

冒頭、JFE・日本国土特定業務共同企業体（以降、JFE-JV と記載。）より、業務内容について説明があった。

(1) 処理対象物仮置き場の業務について

委員より、処理対象物仮置き場の撤去も考慮した積み込み作業を計画しているのかとの質問があった。JFE-JVより、南相馬市とも協議しながら作業計画を策定するとの回答があった。

(2) 処理対象物について

委員より、ごみ質の安定化はどのように行うのかとの質問があった。JFE-JVより、処理対象物仮置き場からの搬入計画策定の段階でごみの均質化を検討するとの回答があった。また、受入ヤードでの作業員は仮設焼却施設での作業経験者を採用し効率的に作業を行うとの回答があった。

(3) 施設について

委員より、受入ヤードや灰保管施設で容器が破れた時に清掃ができるように工夫はされているかとの質問があった。JFE-JVより、施設外へ水が漏洩しないよう床面に勾配をつけたり水返しの設備を設置し対応しているとの説明があった。

(4) 教育訓練について

委員より、危険物等の不適物が搬入された場合の作業員への教育はどのように行うのかとの質問があった。JFE-JVより、緊急時マニュアルや手順書を整備し教育を行うとの回答があった。

以上